

第2章 いじめの未然防止

1 学級づくり、集団づくり（中学校編）

1 「学級開き」 ～規律の根幹づくりと期待づくりを～

入学、進級による新しい「出会い」を大切に、学級や学年の基盤づくりを円滑に行いたい。しかしながら、不安を感じながら登校してくる生徒も少なからずいるだろう。

不安を軽減するためにも、いじめやトラブルが起きにくい健全な集団を築くための学級経営の方針を明示したり、教師が生徒一人一人に寄り添い、守り通す意志を表明したりすることも大切である。

学級開きでは、次の3つのことを重視したい。

- ①教師が願いや方針、「話の聞き方」など規律の根幹としたいものも明確に示す。
- ②生徒同士の相互理解や認め合い、人間関係づくりが促進されるような活動を行う。
(例「1分間耐久インタビュー」「新聞紙パズル」等)
- ③活動後の感想を生かし、「よい仲間がつくれそうだ。」「楽しいクラスになりそうだ。」といった期待感を高める。

これらのことは年度当初だけでなく、学期の初めなど、折に触れて繰り返し行い、規律の確認や人間関係の構築・調整・修復を図りたい。



【学級開きでのインタビュー活動】

「話の聞き方」については、この時期に定着させることが重要であり、その後の学級経営にとって大きなプラスとなる。学級開きでペアワークやグループワークなどを行う際も、前述の学級担任の願いや方針、「話の聞き方」に配慮して活動できているかを見守る。「誰もが安心して発言できる教室」＝「差別のない平等な学級」を築き、持続させるには必要不可欠な要素であり、その後の授業規律の根幹をなすものでもある。

2 「学級目標」を活用し、「クラスルール」を決めよう

「学級目標」には生徒の思いや願い、理想の学級像が盛り込まれ、生徒が主体的に学級づくりを進めていく際の指針となる。楽しみながら学級づくりに参画できるようにするため、「学級目標」は親しみやすく、スローガンのような面白みのあるものでもよい。しかし、抽象的な「学級目標」は、その達成に向けて具体的にどのような行動をしたらよいかが生徒には想起しづらい。



【親しみやすい学級目標】

そこで、次のような流れを意識して、より具体的な「クラスルール」を設定したい。

- ①日頃の学校生活や様々な行事で、みんなのどんな表情や言動が見られたら学級目標が達成され、なおかつみんなが安心・安全に学校生活を送り、楽しめるのかということを生徒自身が考え、共有する。(この段階で「いじめ」は許されることではないということをお前提としておく。)
- ②そのための具体的な行動目標や守るべきルールやマナーなどを学級全員で話し合っ
て創り出す。
- ③行動目標をスモールステップで達成させていくことで、生徒が自信をもち、やりがいや楽しみを感じながら学級づくりに参画するようになる。

※行動目標が達成されなかったり、マナー、ルールを守れなかったりする場合は、学級全体で、なぜその目標やルールを設定したのかという意義を再確認したり、その後の行動を改善する意志決定を行ったりして、丁寧に仕切り直すことが肝要である。

以下のワークシートで示すように、行事に合わせて具体的な行動目標を決定する方法や定期的に「学級目標」を振り返り、「クラスルール」を更新していく方法などがある。このことを繰り返し行うことで、生徒自身が学級の課題やいじめの前兆に気づき、正対し、自主的に問題解決する力も養いたい。

合唱前(準備や朝練、各係活動)

- 練習のときに早く並ぶ(強)
- (練習時間を確保する)
- パートごとの話し合いは必ず参加。ふざけない。
- 心の中で自分のその日の目標をたてる(強)
- 歌詞の意味を理解して心をこめて歌う。
- とにかく笑顔!(強)
- 全ての係が責任を持って役割をこなす(仕事を怠れない・活動する)

合唱当日(午前中、本番直前、本番)

- 本番前に黙想をする(強)
- 本番前に陣取り組む(強)
- 笑顔!(強)
- 「K」の音をしっかりと出す(敵)
- はずかしがらない(敵)
- 入場から真実に(最)
- ふくらみをていねいに(敵)

合唱前(準備や朝練、各係活動)

- 陣取り組む(最)
- 最後まで係活動をする(強)
- 合唱して、駆け合う(強)
- 歌詞をしっかりと確認する(敵)
- 声量を出す(敵)
- 心をこめて歌う(強)
- 歌う時もふざけない(最)
- 指揮者をよく見る(強)
- 歌詞の意味を考えて歌う(強)

合唱当日(午前中、本番直前、本番)

- もくろみをする(強)
- 入場時に下を向かない(強)
- 笑顔で歌う(強)
- 指揮者をよく見る(強)

↑「学級目標『最強無敵』を達成するには」(合唱祭前) ↓
【月に一度行う学級目標振り返りシート】→

学級目標振り返りアンケート () 月

2年2組 番 氏名
O:学級での生活を振り返って、次の質問に答えて下さい。
「はい」=3 「どちらかと言えば はい」=1
「どちらかと言えばいいえ」=-1 「いいえ」=-3

	質問内容	自己評価
F	学級の雰囲気は良い(楽しい)ですか。	3 1 -1 -3
	男女仲良く、みんなが笑顔していますか。	3 1 -1 -3
	友達が良いにこをしてくれら、みんなで楽しんでいますか。	3 1 -1 -3
M	学級での活動の時間、メリハリがつけられていますか。	3 1 -1 -3

(略)

44	学習でも、友達関係でも、係活動でも、校外活動でも、委員会活動でも、なんでも良いので、「私は〇〇を頑張っている」と言えますか。	3 1 -1 -3
----	--	-----------

学級での問題点

例：チャイムスタートができていない。...

問題点に対して、あなたが努力すること

例：時計を見て行動する。次の授業準備をしてから休憩する。3分前行動を心がける。...

問題点に対して、クラスのみんなが努力すること

例：注意し合う。誰かが1分前に呼びかける。...

<2年2組学級目標>
FM東中44ちゃんねる
F:友達(friend)を大切にするクラス
M:メリハリあるクラス

3 「問題解決力」と「自己有用感」を高める係活動

一般的な当番活動が軌道に乗り、スムーズに活動ができるようになったら、さらにプラスして「創造的な係活動」にも取り組みたい。「創造的な係活動」とは学級全体を楽しくするために、また、活動する生徒自身も楽しみながら行う活動である。生活班を解体し、仕事内容や係のネーミングも生徒の発想に任せる。各係の構成人数も制限をせずに、その仕事をやりたいメンバーが集まって活動を進めていく方法もある。

こういった係活動は、多くの生徒が小学校でも経験しており、比較的スムーズに取り組むことができる。活動をより充実したものにするためには、仕事内容を可視化して常に仲間から称賛や評価を受け、活動を改善していけるようにすると良い。さらに、学年づくりにも生徒が主体的に参画するという観点から、学級の垣根を超えて学年全体を向上させる「創造的な活動」に発展させ、自治的な力を一層高めて広い範囲で作用させたい。

しかし、このように工夫を凝らしても、係内の人間関係上の課題や活動のマンネリ化・停滞といった現象がみられることがある。そんな時こそチャンスと捉え、係ごとに活動を振り返り、成果や課題、悩みを共有して改善策を探るように促す。さらに、メンバー以外の仲間に相談して解決策を一緒に考えたり、学級全体に活動への協力を依頼したりする場を設け、活動が活性化するように、また、係内や学級全体の絆が深まるよう後押ししていく。

そうすることで、生徒が自分たちの学級のこと、より関心をもつようになり、様々な行事や活動において主体的に行動できるようになり、いじめ防止の観点からも欠かすことのできない「問題解決力」が向上することが期待できる。さらに仲間を笑顔にすることで、自身の取組に大きな達成感が得られ、「自己有用感」の向上にもつながる。

- <創造的な係> (例)
- ・Are you hungry? 係 (給食のメニューを紹介する)
 - ・ランチトーク係 (給食時に班で会話するテーマを提案する)
 - ・青春係 (レクリエーションを企画、運営する)
 - ・ハッピーバースデー係 (短学活や給食時に誕生日を祝う)
 - ・みんなのいいところ見つけ係 (学級メンバーのよさを紹介する)
 - ・学級年表係 (学級の出来事を年表に記録する)
 - ・今日のMV P係 (活躍やよい行動、学習等での頑張りを紹介する) など



【仕事内容の可視化】

- 学級目標の達成に向けて具体的な行動目標を共有し、どのように振る舞えば仲間や学級のためになるかということを確認することで、生徒は目的をもって主体的に諸活動に取り組むようになる。
- 学級活動の中に生徒のアイデアがダイレクトに活かされる枠組を用意することで、生徒は自主的・主体的に活動を創り出すようになり、学級に活気が生まれ、さらには生徒の「問題解決力」や「自己有用感」が高まることが期待できる。